

軽

三年

回数 12
筆順

巨車 軽 軽
ケイ
かるい・かるい・かるい

成り立ち



「小道」といういみの「徑(4年499)の「聖」と、「車」とを組み合わせて作った字で、「小道でもとおること」がでる小さな車」「かるい」車のことをあらわした字です。今では、車にかぎらず、「かるい」といういみにつかわれます。【例】軽小、軽量。

また、「手軽」「身軽」といういみにもつかれます。【例】軽食、軽装、軽騎(兵)。

また、「軽々しい」「軽んずる(ばかにする)」などのいみにもつかわれます。【例】軽率、軽薄、軽蔑、軽視。

〔聖は「逕」の略字で、「経(5年695)の本字であることは、「経」の項に述べてある。〕

使い方

▽ぼくのおかあさんは軽自動車(ジョドビキ)を運転(ウンテン)しています。軽自動車は車体(クルマ)が軽いので、運転(ウンテン)しやすいのだそうです。夏(なつ)になると、つばめ(つばめ)が軽やかに空(そら)を飛び(と)はじめます。つばめは、夏の使者(ツバメ)です。

熟語例

▽軽量(目方が軽いこと。「柔道の軽量級で、優勝した」などというふうには、つかいません。)
▽軽食(軽い食事。「おなかですいていなかったので、昼は軽食ですませた」などというふうには、つかいません。)
▽軽装(身軽な服装)
▽軽率(軽々しい。軽はずみ。「軽率な行動を、後悔する」などというふうには、つかいません。)
▽軽薄(軽はずみで、あさはかなこと。慎重さが足りないこと。「彼は軽薄な男だから、人から尊重されないのだ」などというふうには、つかいません。)
▽軽蔑(ばかにすること。軽んずること。「そんな態度をとると、人に軽蔑されますよ」などというふうには、つかいません。)

血

三年

回数 6
筆順

イ 白 血
ケツ
チ

成り立ち



皿の形をあらわし、皿といういみの「皿」の上に、血のいみの「一」をくわえて作った字です。

むかし、中国では、神をまつるときに、牛や羊をいけにえとしてそなえましたが、その「血」をとって皿にもり、そなえました。その「血を皿にもった形」をあらわした字です。

血は体の中をいきおいよくめぐっていますので、「強く生き生きとしている」ことをあらわすのにつかわれます。【例】熱血。

使い方

▽ころんで、ひざをすりむいて、血が出ました。よく水で洗ってからバンドエイドをはっておきました。
▽おねえさんは、献血(けんけつ)したことがあります。事故(じこ)や病気で、輸血(ゆけつ)が必要(ひつよう)なことが多いのだそうです。献血(けんけつ)をすると、大ぜい(おおい)の人が助(たす)かるし、自分の血液(けつえき)の成分(せいぶん)がわかって、とてもいいのだと、おねえさんは言(い)っていました。

熟語例

▽献血(けんけつ) (血をささげること。輸血(ゆけつ)が必要な人のために、血をあげることです。)
▽輸血(ゆけつ) (病気(びょうき)やけがで、血(ち)が必要な人の体(からだ)に血液(けつえき)を入れること。)
▽血液(けつえき) (血のこと。血は液体(えきたい)ですから、血液(けつえき)とも言うのです。)
▽出血(しゅっけつ) (血(ち)が出ること。「出血(しゅっけつ)大サーブス」などということばを聞いたことがありますか? あれば、血(ち)が出るような大変(たいへん)なサーブス(サーブス)というです。)
▽熱血(ねつけつ) (「熱(あつ)い血」ということば。「熱血漢(ねつけつかん)」といえは、強く勢(いきおい)のいい男(おとこ)の人、と、ついでです。)